

# 令和7年度第3回平塚市市民活動推進委員会 議事録

日 時 令和7年11月7日（金）午後2時から午後3時20分まで  
場 所 ひらつか市民活動センター 会議室A・B  
出席者 委員 後藤委員、和久井委員、西畠委員、大関委員、能勢委員、船越委員、原田委員、中村委員、小宮委員  
事務局（協働推進課長、市民協働担当長、市民協働担当1人、ひらつか市民活動センター長）  
傍聴者 なし

## 開会 委員長挨拶

### 1 市民活動センター上半期利用状況、事業実施報告

市民活動センター上半期利用状況、事業実施報告について事務局から説明した。

#### 〔委員からの意見・質問等〕

＜委 員＞ 3点話しがある。1点目は稼働率の話である。センターと公民館の連携などありましたが、団体がこの時間帯に使用したいと希望が重なった場合、どのような調整をしているのか。2点目はセンターホームページの団体ページを見る方が増えたとのことで、団体によるホームページの更新は在宅かセンターに来て行うのか。3点目についてだが、団体の承継問題はどこも同じような課題を抱えている。私の知る限りでは大和市に神奈川定住援助協会という団体が外国人の方々への支援をしていた。その団体の先駆者である代表が亡くなつたが、意思や事業を全て引き継ぐことは難しいことである。同じような方たちの活動は困難で、どうやって次の誰かが出てくるのかと思っている。

＜事務局＞ 1点目だが、満室の場合、先着順である。人気の時間帯は午前中である。これは、利用団体に高齢者が多いことが起因している。時間帯別に、午前、午後、夜間の順に使われている。午前中は満室になることが多く、満室になると公民館には情報提供している。市民活動団体は会議室の予約が3か月先まで可能である。例えば、本日11月7日からであれば、2月7日までは先行予約が可能である。公民館の利用団体は、フリースペースも活用している。

2点目だが、登録団体ごとにパスワードを付与している。パスワードは平塚市協働推進課から各団体へ通知している。代表者の変更、活動内容の更新など基本情報について、予約設定を行う。予約内容の齟齬などを確認し、ページの更新をかける。もう3年継続している。初めはセンターで団体を手伝いながら作業をしていたが、最近は団体も慣れてきたように見受けられる。ただし、350団体のうち、120～130の団体は、ページがあることも把握していないと見受けられる。

＜委 員＞ 在宅でページの更新ができるのか。また、写真や記事の投稿はできるのか。

<事務局> 在宅でページの更新は可能である。ただし、写真や記事投稿はできず、基本情報のみである。InstagramといったSNSや団体のホームページがある場合、リンクを掲載することはできる。スマートフォンでも更新は可能である。

3点目だが、事業承継は厳しい状況である。また長い年月、活動しているとモデルチェンジをする体力がなくなる。代表にカリスマ性、影響力がありすぎると、同じことを承継していくことは難しい。事業を継がれた方がモデルチェンジをできればよいと考えている。

<委員> 2点話しがある。1点目は防災のアンケートについて。災害時に災害ボランティアセンターが立ち上がり、そことの情報共有は考えているか。

<事務局> 防災座談会は平塚社会福祉協議会と関わりながら行っている。また、平塚市災害対策課にも情報共有している。昨年、初めて災害ボランティアセンターが立ち上がった。最終的に災害対策課が何ができるのか情報を下ろしていくこととなるが、平塚社会福祉協議会は災害ボランティアセンターが立ち上がるところに手一杯となる。市民活動団体の出番は、災害の情報が見え始めてきたからである。

<委員> 2点目は、若手のボランティア参加を促進する事業について。わくわくフェスタが該当すると思うが、手ごたえはどうか。小学生がターゲットのイベントだから難しいとは思うが。

<事務局> 来られる子どもには保護者がいる。まずはこういう楽しいイベントがあることを知つてもらうことが重要と考えている。30～40代の保護者が多いが、このイベントを通じて、保護者が子育てなどに一定程度落ち着いたのち、市民活動をやってみたいと感じてもらえるよう長い目線で行っている。

<委員> こうしたイベントの後、イベント参加者がセンターに足を運ばれているなどあるか。

<事務局> 市民活動センターまつりでも同様なのだが、たすけくんというセンターのマスコットキャラクターが大分定着してきたと感じる。東海グローカルフェスタにセンターとして出展した際、ブースに来た子どもから、たすけくんだ、と言葉をもらった。知っているの、と声を掛けたらわくわくフェスタに行ったから知っているよと返ってきた。たすけくんというマスコットキャラクターを認知いただくことで、いずれはセンターや市民活動に対し、興味が向かえばいいと考える。なお、こうしたイベントには高校生などボランティアに参加いただいている。現在は、センターにアルバイトで大学生を2人雇っている。市民活動センターまつりには他の大学生、高校生もボランティアに参加いただいている。

<委員> たすけくんはどうやって作成したのか。

<事務局> センター職員が手書きで作成した。それを徐々に、今風にアレンジしている。

## 2 令和8年度平塚市市民活動推進補助金のスケジュールについて

### 〔委員からの意見・質問等〕

- <委 員> 補助金上限額について、過去に団体へ交付した補助金額などを根拠として決めているのか。
- <事務局> 団体からは、補助金の経費について申請いただいている。市民活動推進補助金審査会で補助金額の査定を行う。団体に対し、事前の質問のやりとりもさせていただいているがほぼ申請額と同額の査定額となっている。
- <委 員> 団体によっては経理をボランティアがやっている、代表はお金の動きが分からぬといふ方もいる。団体のお金の動きを把握できているのか。
- <事務局> 今年度からセンターにて、団体の収支等を状況把握し、支援の一助とするために、センターの登録団体に対し、収支等が分かる資料を提出していただく、という試みを始めた。補助金については、協働推進課への収支、実績報告の提出はもちろん、審査会へのプレゼンテーションにより詳細を確認している。こうした補助金関係書類の作成方法についても、必要に応じて助言を行っている。
- <委 員> 前回の平塚市市民活動推進委員会で色々と議論をしたが、資料を見るに、組織基盤整備コースがそのまま残り、各コースを受けることができる団体は補助金額の総額を補助金上限額で割り返す数でよいか。
- <事務局> お見込みのとおり。

## 3 提案型協働事業の進捗状況

令和8年度実施事業について事務局から説明した。

### 〔委員からの意見・質問等〕

- <委 員> 協働事業審査会委員として出席させていただいた。今回の協働事業は、環境保全課と福祉部門の連携点を評価させていただいた。表面的には多頭飼育、ゴミ屋敷といった問題があるが、実は人の問題で福祉的な観点のみだと解決が難しいということが分かった。せっかく、事業を行うなら、神奈川県は動かないと思うので、平塚市として協働事業の期間だけではなく先を見据え、次に活かせるものとしてはどうかと感じた。なお、事業に取組む前に予算を作って、進めていく上で他に重要なことがあれば、市と協議し柔軟に予算を使えるようにできないとだめなのではと思った。
- <事務局> 審査会で採択された事業計画に基づいて、協働事業を行っていただくのは前提となる。協働契約書では、事業の趣旨から大きく逸脱しない範囲での支出の動きについては、協働パートナーとの協議により対応が可能となっている。

#### **4 第7回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の選考（非公開）**

第7回平塚市みんなのまちづくり事例の選考を行い、委員の総意により、11事例の年間大賞を決定した。

#### **閉会**